

今宮通信



～Dr's コラム～ 11月は巽今宮病院糖尿病月間

糖尿病と上手に付き合う

院長 大塚章人

11月14日は世界糖尿病デーです。世界に広がる糖尿病の脅威を踏まえ、1991年にWHO（世界保健機関）とIDF（国際糖尿病連合）が制定し、2006年に国連総会で認定されました。当日やその前後の期間は、世界中で糖尿病の予防や治療についての啓発活動が推進されています。11月14日はインスリンを発見したカナダのフレデリック・バンティング医師の誕生日に当たります。1921年、バンティングらは犬の膵臓から血糖を低下させる物質の抽出に成功し、これをインスリンと名づけました。1922年にはインスリンが製剤化され、インスリンの自己分泌が絶対的に欠乏し死を待つしかなかった1型糖尿病患者さんの糖尿病昏睡による死亡を激減させました。この功績でバンティングは1923年にノーベル生理学・医学賞を受賞しました。



(写真：正面入口ライトアップ)

巽今宮病院においても、今年から11月を糖尿病月間と定め、11月8日に第5回糖尿病セミナーを開催し、11月1日から30日まで、外来で糖尿病資料を配布し、また、昨年に引き続き、病院玄関に世界糖尿病デーのシンボルマークである、糖尿病に対して団結することを意味するブルーサークルを掲示したり、玄関までの道路の両側のフェンスをブルーにライトアップしたりして、糖尿病の啓発活動を行います。

当院が糖尿病月間を制定した大きな理由は、糖尿病の特徴について知り上手に付き合ってもらいたからです。かなりの高血糖（空腹時血糖が250mg/dl以上）が続くと口渇・多飲・多尿などの脱水症状が出ますが多くは無症状です。健診で高血糖を指摘されても自覚症状が無いことから放置しがちです。しかし、自覚症状がなくても、糖尿病の診断基準値以上（空腹時血糖126mg/dl以上、食後血糖200mg/dl以上）の高血糖が続くと脳、心臓、腎臓、目などに合併症を引き起こすため、脳梗塞、心筋梗塞により早死にしたり、失明したり、腎不全により透析が必要になったりします。一方、適切な血糖管理を行えば、高血糖による脱水症状や合併症による自覚症状も無いため日常生活上の制限は何もなく、また、合併症で早く亡くなる可能性も低くなり寿命も糖尿病でない人と変わりません。糖尿病は、気づくと気づかない、治療をしないとしないで人生に雲泥の差が出る病気です。

巽今宮病院糖尿病月間が、糖尿病と上手に付き合うきっかけとなり、糖尿病でない人はその発症を防ぎ、糖尿病の人は合併症の発生を防ぎ寿命を短縮させないための一助になればと期待しています。

～秋祭り～

10月18日午後2時から当院にて秋祭りを開催し、入院患者様・ご家族様、地域の方々にご参加いただきました。当日は、お子様向けの医療体験・大人向けの健康チェックコーナーを設け、また焼きそば・綿菓子・ドリンクコーナーを出店しました。箕面市のゆるキャラ『モミジヌ』も登場し、外部から『あしたも笑おう会♪』の方々に来ていただき参加者全員で『笑いヨガ』を楽しみました。雨天での規模縮小開催となりましたが、楽しい『秋祭り』となりました。



(写真：秋祭りの様子)

～行事予定～

11月8日(土) 糖尿病セミナー

- ・テーマ：糖尿病と認知症
～認知症を予防する方法～
- ・時間：14:00～15:40

11月14日は世界糖尿病デー

- ・11月は巽今宮病院糖尿病月間
- ・11月中は、病院入口・院内でブルーサークルを掲示
病院正面入り口のブルーライトアップ

～巽今宮病院 部署紹介～ ●薬剤科

当院では、外来患者様に対しては院内処方を行っています。診察後、そのままくすりを受け取ることができるため、調剤薬局へ足を運ぶ必要がなく手間と時間が省けます。また、処方内容を担当医に問合せしたり、カルテや検査結果を確認して調剤を行うのでくすりの説明を的確かつスムーズに行えます。

入院中の患者様へは、お部屋に伺ってくすりの使用方法・注意事項・効能などの説明をしたり、くすりに関する質問や不安に対して説明をしたりします。患者様とお話の中から得られた症状や効果などの情報を医師や看護師、他の医療従事者と共有し、有効で安全な治療が行われるよう努めています。また、退院後も安心して薬物治療を続けていけるように、患者様の生活スタイルに合った服薬管理方法についての提案を行っています。

私たち薬剤師は、処方箋に基づいた調剤や医薬品の供給だけでなく、薬物相互作用（くすりの飲み合わせ）の確認や作用・副作用を把握し、くすりの適正使用を推進しています。



【写真：薬剤科 薬剤師】

あなたのくすり いくつ飲んでいますか？



高齢になると、くすりの数が増えて副作用が起こりやすくなるので注意が必要です。

監修：東京都健康長寿医療センター長 秋下 雅弘
厚生労働省
制作：一般社団法人 くすりの適正使用協議会
日本製薬工業協会

～ポリファーマシーって何？～

高齢になると、複数の病気をもつ人が増え、服用するくすりの数が増える傾向にあります。ポリファーマシーとは、多くの薬を服用しているために副作用のリスクが高まったり、飲み間違いや飲み忘れが生じる状態をいいます。

高齢になると、肝臓や腎臓の働きが弱くなり、くすりを分解したり、体の外に排泄したりするのに時間がかかるようになります。また、くすり同士が相互に影響し合うこともあります。そのため、くすりが効きすぎたり、効かなかったり、副作用が出やすくなったりすることがあります。

くすりを飲んでいて、気になる症状はありませんか？くすりが多すぎて飲み忘れていたりしていませんか？気になる症状があっても、勝手にくすりをやめたり、減らしたりするのはよくありません。必ず、医師や薬剤師に相談しましょう。

～今宮の庭～

巽今宮病院の敷地内には薬木園をテーマに薬効を持った植物がたくさんあります。今回は、当院のシンボルツリーでもある『ハシバミ』をご紹介します。

●ハシバミ

ハシバミの種は、『和製ヘーゼルナッツ』とも呼ばれており、生でも煎っても食べられるそうです。栄養価が高く、タンパク質や脂質、ビタミンE、ミネラルなどを豊富に含んでいます。

ギリシャ神話に登場するヘルメスは羽のある2匹の蛇が巻き付いたハシバミの木の杖を持っています。

このヘルメスが持つ杖カデューシャスは、医学等の表象であり、当院のロゴにもなっています。



アクセス



ホームページ



FaceBook



Instagram



LINE公式